

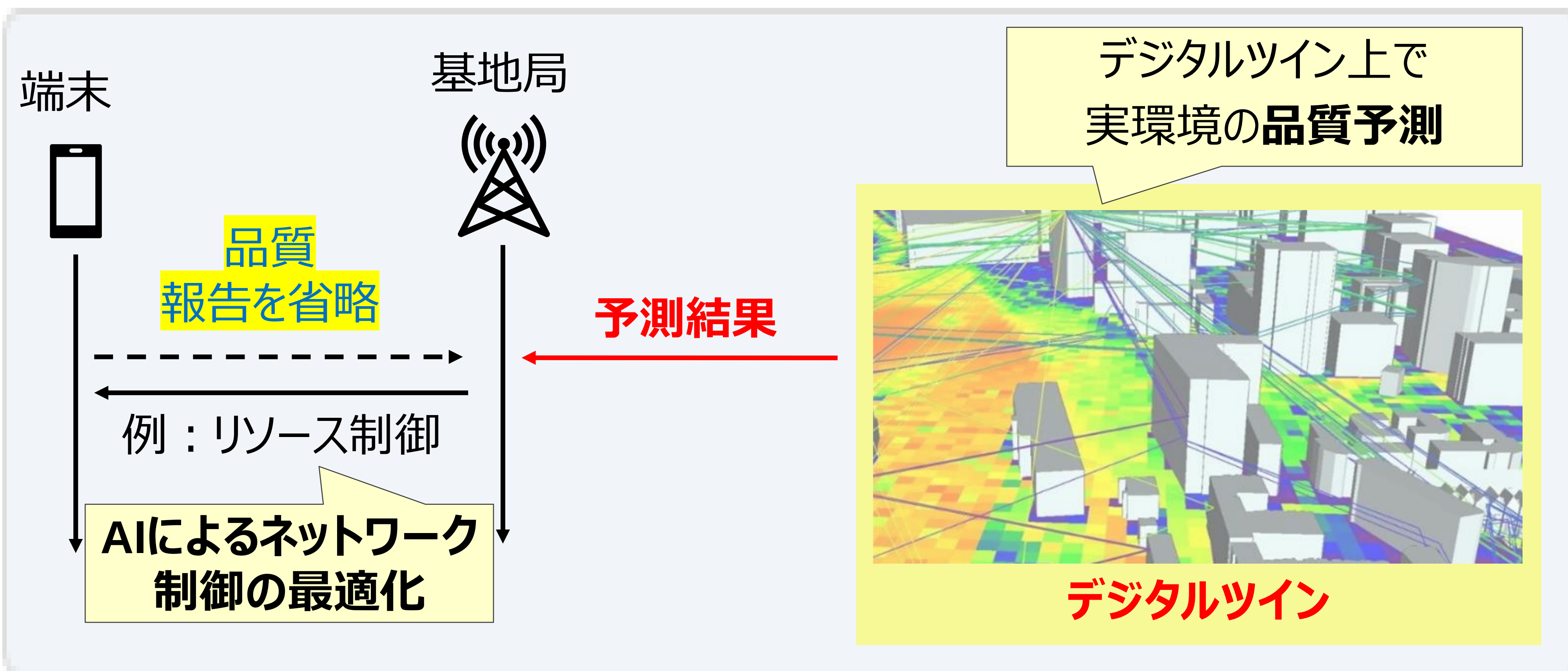
ネットワークが「自ら気づき・判断し・最適化する」次世代運用へ

■背景・課題

- お客様品質の向上を目指し、AI・デジタルツイン及びドコモが持つデータを活用した無線ネットワーク制御を検討
- 現在のネットワーク制御は、その時点での通信品質測定に依存しており、通信品質の劣化を事前に回避することが困難

■技術の本質・ポイント

- デジタルツインで実環境を再現し、位置情報・伝搬路情報からAIで無線品質を予測
- 無線品質の予測結果を基に、適切なネットワーク制御をAIによって実施
 - 制御オーバーヘッドを削減しつつ、リソース利用効率を向上



■ビジネス実装・提供価値

想定業種：通信インフラ

導入メリット：上り通信速度最大16%向上

実装フェーズ：技術検証（シミュレーション）

■活用シーン

高速・安定的通信を実現

- ユーザが実際にスループット低下する前に対策することで、品質を安定させる
- 電車や車などに乗っているときなど、通信環境が高速で変わる際により効果的
- 測定・報告による通信の遅延及び端末側の消費電力の削減を期待できる

□共創パートナー

VIAVI
VIAVI Solutions

